

重要な構成要素「柴又丸仁^{まるじん}」

建築：

参道の景観を構成する要素

「柴又丸仁」は、佃煮などを販売する木造2階建て、小規模間口（本建築は最小規模の2間（約3.6m））、妻入り^{つま}（注）の店舗です。

隣接する4軒の同じ建築類型のまちなみは、敷地奥行も揃っており、参道沿いの店舗群の中でも一定の統一感を示し、この規模、建築類型に葛飾柴又ならではの参道のまちなみに見られる文化的景観の特徴があります。

開け放した開放的な1階軒庇下で佃煮等を店頭販売し、軒庇上には看板を置いています。参道側の外観は、ファサードが連続した参道において、屋根、庇^{ひさし}などのまちなみの表情を作る要素によって賑わいを演出しています。

（注）妻とは棟と直角の壁面のこと。妻入りは、妻に出入口を設ける建築形式。また、妻を正面とするもの。（広辞苑第七版）